

分野を問わず、持てる技術で時代の最先端に行く 株式会社 中央電機計器製作所

創業が1930年、83年目を迎える老舗の電機機器メーカー。といっても外観からは想像もつかない町中の事務所といった風情。しかし、話を聞く内に驚くことばかり。創業当時は電力量計に使われる変圧器や変流器を作っていたが現在の主力製品は寸法自動測定器。CCDカメラを使って、平面なシート形状品の外形、縁取り、取り付け穴の表面寸法を高精度で自動測定する装置である。この寸法自動測定器から始まり、いまでは計測制御システム、航空機試験器、エネルギー、環境関連分野と多岐にわたる機器の設計、製作技術をもっている。最近話題のLED照明も作っていて、社内の照明は当然すべて自社製LED。驚いたことに、最新鋭ジェット機ボーイング787や開発中のジェット機の試験機を作っていて、お伺いした際にも、ある航空機の検査機がメンテナンスで戻っていた。また、現在進めているエネルギー分野のプロジェクトは海外にも展開する大がかりなもので、今後の同社の売り上げ40%になる可能性があり、10年、20年先を見据えた主力商品に育てたいと言う。さらには、航空宇宙産業分野のプロジェクト案件もあり、さまざまなカスタマイズ計測、試験、制御システムの需要に応じて行く方針。そのためには、売り上げに対し5~8%の開発費は継続して投入し、この分野のリーディングカンパニーでありたいと。入社競争倍率30倍というも頷ける。整理整頓された事務所も手狭になってきて、将来新社屋の構想もあるとか。



ジェット機用検査器



ミーティング室の照明器具も自社製LED



寸法自動測定装置 1

寸法自動測定装置 2

会社は息子に任せ、自分は日本の将来を担える人材を育てたい

国家プロジェクトや産学連携での研究開発にも参画する非常に意欲的な企業である。畑野会長は、「中小であっても大企業とは対等のおつきあいしかない、下請けはしない」と言う。そこには、よそにはできない確かな技術を持っている自信が現れていて、企業の規模の大小ではなく、パートナーとしてのものづくりを進める企業としての資質を重視する姿勢が見える。

「そのために必要なのが、人である」とも。畑野会長は、自社の経営を長男の淳一氏に1年前に委ねられ、ご自身は大学の講師を務めた



り、大阪府中小企業家同友会代表理事（今年4月以降顧問）を務めたりと、人育て、中小企業の発展とに時間を割いている。企業は「人、物、金」といわれるが、まさに、「人を育てるために何が出来るか？」との思いからであり、自社のためだけでなく、日本の将来を担う人材の育成に尽力出来ればという強い思いがあるからである。

図面には現されない「技」と「知恵」 世界が目にする中小企業の底力でグローバル化

畑野会長の持論、「日本の大企業を支えているのは中小企業の底力である。確かに、大企業には、研究、開発部門があり、中小に比べるもなく潤沢な予算があり、設備がある。しかし、中小企業には、長年の経験、実績に裏付けられた職人、技術者の「技」と「知恵」が蓄えられている。だからこそ、大企業は中小企業に頼らざるを得ないところがあるはずだ。

ひとつの実例として話。ある大企業が、取引先の中小企業に発注していた機械の図面をそのまま、中国の企業に発注された。当然、同じ機械が出来上がり、搬入された。ところが、動かない。寸法検査はOK、間違いなく図面通り出来ている。困り果てて、元の発注先に見て欲しいと懇願された。その中小企業の社長は、「図面を見たときから、これでは動かないと思った」と。動くようにこれまで培った経験で修正しようと、図面には現されない「技」と「知恵」で対応された。発注者側からは見えない隠れた技術、これが中小企業の底力だと言う。その底力を持っている限り会社として発展する可能性はある。いまほど、中小企業にチャンスがある時期はないとも。

実は、この中小企業の技術力に注目しているのが、海外の企業だという。ヨーロッパ、東南アジア、アメリカ、メキシコなど世界各国から工場の視察にみえ、取引に繋がっている。ここ15年~20年前からのことらしい。技術立国日本に学べと大企業に注目が集まっていたが、じつは大企業を支える中小企業にも優れた技術があることに世界が気づいたということだ。これが畑野会長の言うグローバル化である。

女性社員には「ケーキの日」

おもしろい話も。技術系の会社ゆえに技術者が多く、お互いにコミュニケーションを取るのが下手で、毎月1回食堂で飲み会をやって親睦を図っている。各部の持ち回りで、担当にあたった部は全員出席が原則。他部署の者で残業中であっても、たとえ10分でも参加するように言っている。また、女性社員には、「ケーキの日」があり、これも持ち回りで、3時に好きなケーキを買ってお茶の時間を楽しんでいる。すべて、会社の経費で賄われているとのこと。社員間のコミュニケーションを重視されているからである。

畑野会長は人を育てていくと会社は自然に伸びると言う。社員の恋愛相談にも乗ってきたという。その会長の意志を継いで、創業83年に就任1周年を迎える社長の淳一氏は、100周年に現在48人の会社を100人にしたいと抱負を語った。

株式会社 中央電機計器製作所

代表取締役 畑野 淳一

〒534-0013
大阪市都島区内代町2丁目7番12号
TEL : 06(6953)2366(代)
FAX : 06(6953)2414
<http://www.e-cew.co.jp>



【事業概要】計器制御システムをはじめ
様々な試験機、制御システム的设计・製作